

「マーケットの浅読み・深読み」

発行・編集：FXニュースレター

執筆担当：斎藤登美夫

◆◆◆ No.0810 ◆◆◆

24/10/09

【日本の政治情勢、風雲急を告げる動きに】

全世界が注視している米大統領選まで、すでに1ヵ月を切っているが、稀にみる大接戦となっているようだ。日本の報道を見ると、どうも「ハリス氏有利」という気もしないではないのだが、複数の在米筋によると、必ずしもそうではないらしい。いずれにしても、残り1ヵ月弱となるなか二転三転することも予想されており、またまだ予断を許さないという。引き続き情勢を注視しておきたい。

一方、そんな米国とは対照的に日本は、9月27日に行われた自民党総裁選で勝利した石破茂氏が、そののち第102代首相に選出された。束の間の「休息期間」入りかと思いきや、話はそんな単純でなく、むしろ風雲急を告げるような様相だ。以下では、日本の政治情勢について取り上げてみる。

◎「裏金議員の非公認」受け、「自公」合わせても過半数割れの可能性

102代首相に選出された石破茂氏は、10月1日の就任早々、臨時国会会期末の同9日に衆議院を解散し、同27日投開票の日程で選挙を行うと正式に表明した。

これに対し、立憲民主党の野田代表は「石破氏は自民党総裁選の際には早期解散に否定的だった。『ルールを守る自民党』を謳いながら言ってきたことを守っていない」などと激怒。国民民主党をはじめとするほかの野党も、同様に「約束違反」と怒り心頭だ。それもあって、「石破ニゲル内閣」や「ウソツキ内閣」ーなどといった不名誉な名称が早くも飛び交っている。

そんな石破内閣だが、首相自身が約束を反故したこともあってか、支持率もいまひとつ高まらない。また、一部マスコミによる不自然なほどの事前の「石破推し」があり、自民党総裁選を経て石破政権が誕生したようにも思えるのだが、正式誕生後は早々に手のひら返した。通常はいわゆる「ハネムーン期間」と呼ばれるような3ヵ月ほど、醜聞や手厳しい論調をしばらく控えるものだが今回はそれもない。むしろ、かつて石破氏自身が率いた旧石破派で「政治資金収支報告書への不記載を確認」ーなどと就任直後に報じられている。金額が小さいこともあり、石破氏が「事務局の側で確認漏れがあった」と陳謝したうえで、収支報告書の訂正を行う考えを示しているが、大枠としてはいわゆる「裏金問題」と大差がない内容だ。本当に「問題はない」ことなのだろうか。いずれにしても、選挙に向けて「逃げ切れる」のか否かに、まずは注目している。

そうしたなか、今月27日投開票の衆院選に関連し、気になる話が幾つも飛び交っているようだ。そのトリガーのひとつとなったのは、先週末に石破首相が決定した、いわゆる「裏金議員の非公認問題」。これ自体、決定するまですでに二転三転しているモノなのだが、それについてはここでは問わない。しかし、最終的な結論として石破首相が「裏金議員の非公認問題」と発言し、大きな物議を醸していることは間違いないだろう。知人である全国紙の政治部記者いわく、「党員資格なしの非公認はわかるが、重複比例なしはやりすぎ。また非公認になると見られる衆院議員のなかには、先の総裁選で石破氏の支持に周った議員が含まれるとの情報もある。そうなったら当選しても落選しても石破政権へは恨み骨髄だ。喜ぶのは野党ばかりで、逆に党内は『融和』どころではない」ーと指摘していた。かつて小泉純一郎氏が唱えたスローガンではないが、本物の「自民党をぶっ壊す」内閣であるのかもしれない。

また、9日に自民党が正式発表した内容によると、「非公認の裏金議員」が12名に及ぶことで、そもそも論として自民党はもとより「自公を合わせても過半数にとどかない可能性が出てきた」（前述記者）との指摘もある。その場合、自公が少数与党の道を選ぶことは考えにくいので、「第3の党」が連立として協力することになりそうだが、それは果たしてどこなのか。政策などを考えると、国民民主党が最有力という気もするが果たして如何に。

一方、それとは別に、先で指摘したような「自公の過半数割れ」はもちろんのこと、「自民党の単独過半数割れ」でも石破降ろしの機運は間違いなく強まりそう。そして、実際すでに兆候は一部で見え始めている。たとえば、いつぞやは「麻生太郎氏、高市早苗氏に『用意しておけ』と助言」などといったニュースが伝えられ物議を醸したことは記憶に新しいところ。またそれにとどまらず、日経新聞によると「林芳正官房長官は6日、地元の山口県萩市で開かれた支援者との集会で、自民党総裁選への再出馬に意欲を見せた」と報

